

スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・STRING編vol.15

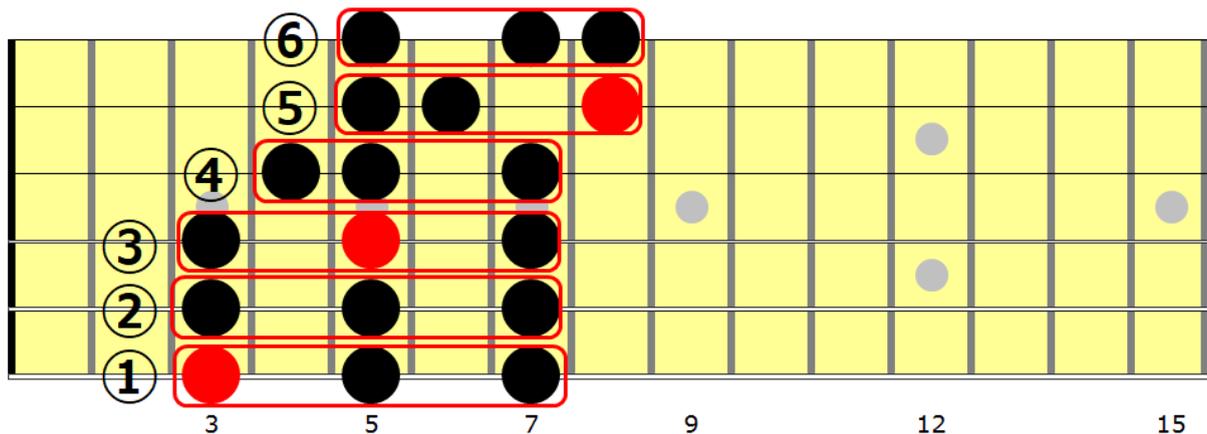
さて、前回のvol.14で完結したこの講座ですが、あと一つだけ、解説しておきたいことを思い出したので追加でこのテキストを作っています。

基本的なポジションと弾き方については全て書いたのですが、今回はもっと、ギターと言う楽器の指板構造から成り立つ、スケールの「ある種の法則性」みたいなものをお話ししていきます。

まず、基準にする場所はどこでも良いのですが、例えば、6弦3フレットのG音をトニックに見た、Gミクソリディアンポジションを元に見てみましょう。

このポジションを、横3音でひとかたまりと見て、それぞれに番号を付けてみます。

図1、Gミクソリディアンポジションに仮の番号を付けてみる



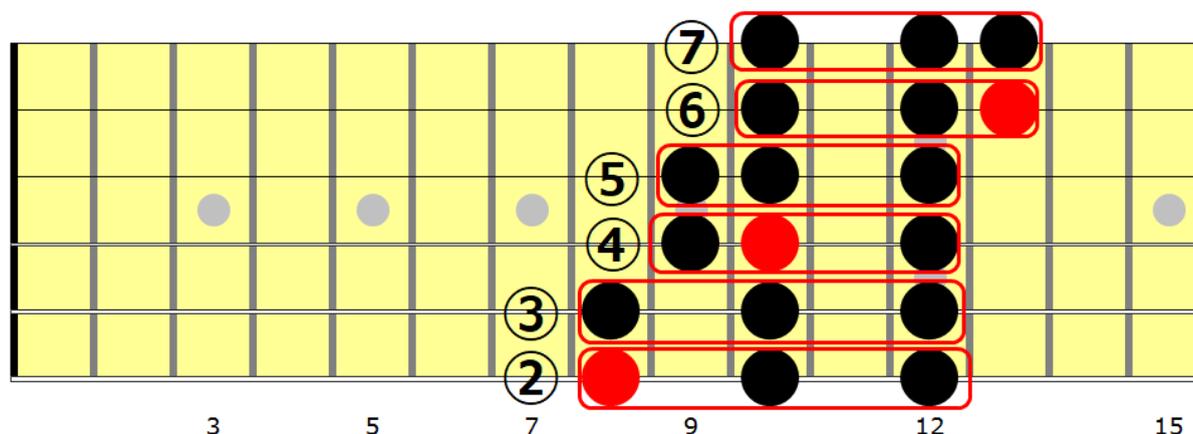
これらは、音名は見ずに、この赤枠内の横の形(音の配置)だけを見ます。

この図からわかるものは、とりあえず6個のパーツがある、という事ですね。

そして実は、追加でもう1つパーツがあり、ギターの構造上、全てのスケールで「これら7つのパーツが順に繰り返されるように音が配置されていく」という法則性を見ることが出来ます。

試しに、上のGミクソリディアンポジションの形と比べやすい場所として、Cアイオニアンポジションを見てみましょうか。

図2、Cアイオニアンポジションに仮の番号を付けてみる

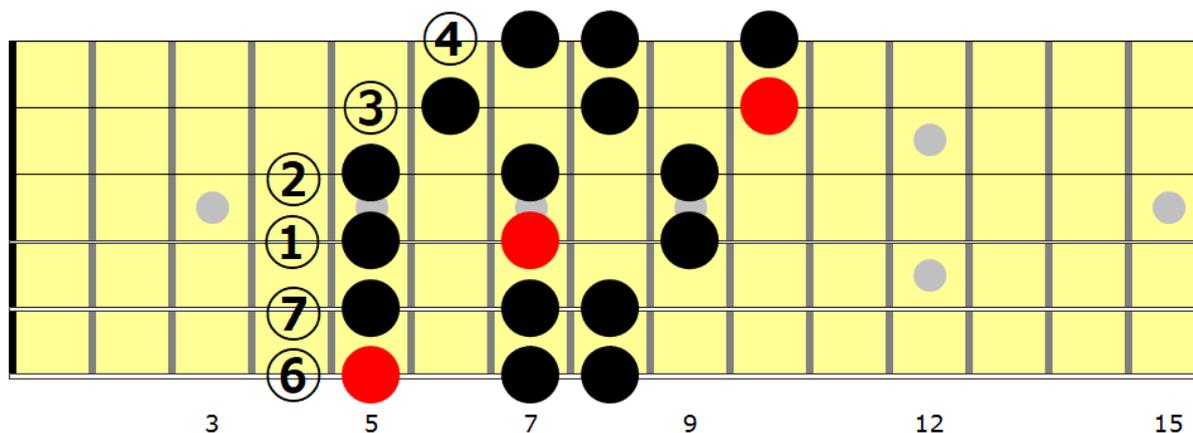


相変わらず2～3弦間で1フレットずれますが、この赤枠の形に付けた番号で見えていくと、Gミクソリディアンの時に2番だったものから始まり、7つ目が出てきていますね。

で、先ほども言ったように、全てのスケールで、始まりのパーツを変えたところから、1～7番のパーツがループするように並びます。

それを確認するために、もう一つ、例えば6番目のパーツから始まるポジションである、Aエオリアンを見てみましょう。

図3、Aエオリアンポジションに仮の番号を付けてみる



見ての通り、上記2つのスケールと同じく、一定の順番で音が並んでいますね。
(※やはり、2～3弦間で1フレットずれますが)

ここに載せていない他のポジションも、スタートになる形が変わるだけで、同じように音が配置されています。(※練習時に確認してみてください)

という事で、この法則性を知っていると、最初は全てランダムに感じるかもしれないスケールポジションも、かなり覚えやすくなるかと思えます。

さて、実際のところ、この法則から外れた見方をする弾き方もあるのですが、今回の話は「ギター構造からこうなっている」と言う話なので、3npsに限らず、コードなどでも、同じような構造を繰り返す「一定の法則性」が存在します。

ちなみに、かなり前に、ブログの方にペンタで同じような解説をしたことがあり、こちらもギターの構造上、スケールと言うものは「形だけで見ると同じようなものが順番に出てくる」という一例になっています。

(※当時のブログ記事<https://shunonuma.com/pentatonic-scale/>)

後は、このテキストでは扱っていませんが、ハーモニックマイナーやメロディックマイナーでも同じような構造(パーツの並び、特に3npsだとわかりやすい)を見ることが出来ます。

今回の話を頭に入れておけば、より、様々なスケールを覚える時のスピードアップに繋がるかと思えます。

それでは、【スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 ~スリーノート・パー・ストリング編~】は以上になります。

ありがとうございました。

大沼